

特別展示

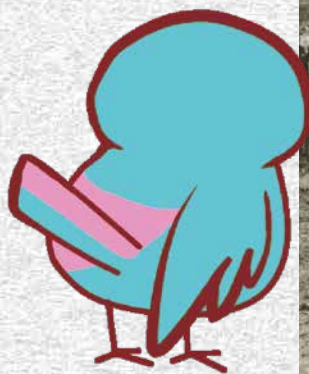
関東大震災から100年

首都圏を襲った未曾有の災害を振り返る



「大正大震災火災の惨禍―築地方面を望む」
1923年

築地方面を望む。



「変りはてた銀座通り」 1923年

多くの死傷者を出した大災害から、今年で100年を迎えます。

首都を襲った災害として多くの教訓を残しながら時代は流れ、生々しい「過去」から「歴史」へと変わりつつあります。その後も東日本大震災をはじめ、日本各地で地震による被害が続き、東京もいつ直下型地震が起こるかわからず、備えを怠ることはできません。

「震災」について考え直す機会として、今回の特別展示を開催しました。(開催期間: 令和5年9月1日～8日)



関東大震災

関東大震災

津波

震災発生5分後に静岡県熱海市で最大12メートル、房総半島南端で9メートルと、それぞれ大きな津波を観測した。しかし過去の災害による教訓から、津波が起きた地域でも人的被害が皆無だったところもある。

地震予知

大正時代、東京で大地震の恐れがあると言った地震学者の今村明恒と、これを否定した同じく地震学者大森房吉の対立があった。関東大震災が起きたことで今村は称賛され、大森は世間から批判を受けることになった。現在でも地震の予知というものは難しく、その代わりに地震を含めた災害に備えた防災や減災に重きを置いている。

液状化・隆起

倒壊

地震直前や直後の大雨により、地滑りや土砂災害が起きたほか、河川沿岸部や干拓地では液状化現象の発生、地殻変動による断層の表層化が起きた。関東圏では房総半島で1.6メートルの隆起が確認されている。また当時レンガ造りや木造が多かった建築物は多くが倒壊し、圧死者を数多く出した。

火災

震災の最たる被害

東京市内だけでも136か所から発火した。当時は防災の対策が不十分であったこともあり、市内の延焼は46時間続いた。関東大震災における死者のおよそ9割は火災によるものだった。その中で最も有名なのは、本所区（現墨田区）の陸軍被服廠跡の被害である。

大正12（1923）年9月1日 午前11時58分

関東圏を大きな揺れが襲う。

死者・行方不明者は約10万5千人を数え、

東京都区部は地震発生直後から起きた火災によって大半を焼失した。

参考文献

『東京市立小学校児童震災記念文集 尋常4年の巻 第10版』

東京市役所 1924 ※

『江戸・東京の大地震』野中和夫 同成社 2013

『関東大震災誌-東京編 写真と地図と記録で見える-』

千秋社 1987 ※

『関東大震災 新装版』吉村昭 文芸春秋 2004

※付きは禁帯出資料となり貸出できないものとなります



被害の現場 子どもたちの証言

大震災 京橋区 月島尋常小学校 第四学年男

時は九月一日であった。

僕が朝起きて見ると天は曇り雨は降り風は吹き、なんという日であらうと思った。

僕は学校へいったときはも早雨はやんで居たが空はまだ曇って居た。

其の日は先生からのお話をきいて家にかえって活動写真館の前で看板を見て居た時に急に自分の身体がぐらぐらするのでなんだろうと思って居た。

すると各所で地震だ地震だと大さわぎとなった。

見る見る中に方々の家はくずれるしあたりからはたすけの声が高くきこえて来た、大地震はやんだが其の後で小さな地震はたびたびあった。

時間がすぎて本所、深川、浅草、日本橋通りが大火となりだんだんと月島の方へとせまってきた。

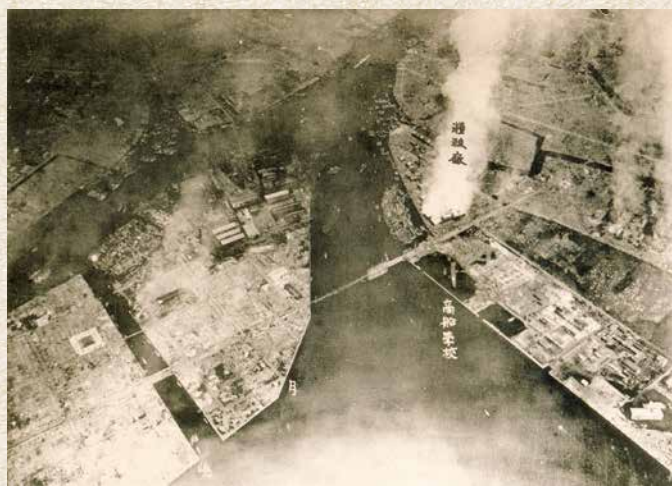
(中略)

する中(原文ママ)風はだんだんと強くなるばかり、電気は消えてしまつてくらやみとなり、九時ごろになった、する中(原文ママ)巡査が二号地に火がついたから、一時も早く逃げろとの事で人々はそれぞれどこかへ逃げ始めた。私も父母や兄さんたちと初見橋の上に逃げた。

そこへ行くと皆助けて助けてと云う声があちらこちらからきこえ始めた。その中に船が来てたすけてくれた。恐ろしい大火は月島をなめる様に一度にやいてしまった。

(後略)

「東京市立小学校教育震災記念文集」



「月島附近(航空写真)」
写真提供：中央区立京橋図書館

本文中の旧字体、旧仮名遣いは、新字体、新仮名遣いに改めてあります。

報道の現場

当時はまだテレビやラジオがなく新聞が主な情報手段だった。東京市内の新聞社は社屋の焼失など壊滅的となり、被災を免れたのは3社(東京日日新聞社・報知新聞社・都新聞社)のみだった。新聞の発行が停止し正確な情報が得られず、地震直後から流言やデマが広がり、市民の心理的な不安や恐怖が高まった。非常時の流言飛語がそのまま地方の新聞で報道されて拡がったため、各地で自警団も組織され、その行動は次第に暴走し、殺傷事件にまでつながった。



「東京日日新聞社屋上より 新橋方面を望む」大正12(1923)年9月
写真提供：中央区立京橋図書館

子どもどくしょの日きねんおはなし会 令和5年4月17日（水）



ひよこぐみ、3才以上向けの2クラスに分けて開催しました。大型紙芝居、大型絵本の読み聞かせのほか、折り紙でうさぎの指人形を作りました。

複製原画展

『いのちの木のあるところ』

トルコの世界遺産「ディブリーの大モスクと治癒院」にまつわる物語『いのちの木のあるところ』の複製原画展を開催しました。

原画の他、ラフスケッチ、作品の舞台となった大モスクの写真や関連書籍なども展示して、皆様にお楽しみいただきました。



雑誌のリサイクルについて

雑誌のリサイクルが、館内整理日後の日曜日に変更になりました。ただし会場の都合により行わない月もありますので、館内の掲示をご確認ください。

中央区電子書籍貸出サービス



好評をいただいています区内在住、在勤、在学の方向けの電子書籍貸出サービスですが、岩波児童文庫、岩波ジュニア新書、講談社青い鳥文庫などお子様向けの本も充実していることをご存じですか。区立図書館と合わせてぜひご利用ください。

今後の行事予定

- 10月 親子で楽しむ絵本講演会
- 11月上旬 小展覧会
- 12月下旬 クリスマス子ども会
- 1月上旬 本の福袋
- 2月 めいぐるみおとまり会

※開催時期は変更となる場合がございますので、詳細は「区のおしらせ中央」または図書館ホームページをご覧ください。

編集後記

特別展示『関東大震災から100年－首都圏を襲った未曾有の災害を振り返る』に合わせ、いつもより早めにお届けいたします。

実際に関東大震災を経験した人は今ではほとんどいませんが、こうして語り継ぐことにより、改めて防災について考える機会となりましたら幸いです。